

# iCONMコラムB

## 孵化したての会社（スタートアップ）育てる環境を ～ iCONMの研究環境を活用したシェアラボ施設～

「日本の大学が持つ科学技術のレベルはとても高い。しかし、その技術を実用化するためのノウハウはまだ未成熟な部分がある」。これは、幾多のスタートアップを創出し、世界トップクラスのシェアラボ事業を営むBioLabs（バイオラボ）社・ヨハネス・フルハーフCEOの言葉です。「起業」には、素晴らしい研究成果があっても、それを事業経営に繋げる人材と資金そして環境（場所）が必要です。特に、生命科学系の事業を起こすためには、高額の研究機器や制度に適した施設を整備するために、多額の初期投資が必要なが多く、せっかく獲得した資金がラボを構築するための初期投資に消えてしまうことも少なくありません。

川崎市臨海部にある公的研究機関「ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）」には、生命科学研究のための最先端の機器や設備が整っており、法律や倫理規定に則った各種委員会を組織するとともに、研究に必要な多岐にわたる資格保持者、施設や設備の管理担当者が常駐しています。この研究環境は、研究者が研究に専念できるという観点でとてもプラスとして働き、その結果、現在12社が社会連携ラボとして、48㎡を1ユニットとした研究室を使用しています。しかし、起業したての従業員1人や2人のスタートアップにとって、研究室一部屋を借りることは初期投資額も大きく、コストパフォーマンスが低くなります。そのため初期投資を減らすために最低限の実験スペースとして、研究室単位で借りるのではなく、実験台（ラボベンチ）で借りの方が経済的です。これを「シェアラボ」と言います。一般的にも、シェアエコノミーと言うように、ひとつの部屋を数名でシェアして住む

ームシェアというものがあります。自分たちのラボを持つための十分な資金が無くても、実験台のスペースを借りながら最先端の機器や設備を共同利用することで、数千万円かかる初期投資を削減でき、その資金を優秀な人材を雇うために活用したり、ネットワークに活用したりと、スタートアップがより効率的に成長できるようになります。

バイオラボ社が、アジアへの進出拠点として iCONM を選んだ背景に、この良質な研究環境があり、また、国際空港へのアクセスが良いという点も評価されました。同社と繋がる投資家や大手企業も魅力的で、日本のスタートアップが日本の市場だけでなく、グローバルな市場で活躍できるよう私たちは支援しています。

【お問い合わせ先】



事業運営：公益財団法人川崎市産業振興財団  
〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町 3-25-14  
TEL：044-280-1121（代表）  
E-mail：iconm-i@kawasaki-net.ne.jp